令和5年度　後期学校評価　報告書

鬼北町立好藤小学校　　令和5年度12月

【評価基準】A:目標を達成　B:7割以上達成　C:6割以上達成　D:6割未満の達成　　4:そう思う　3:どちらかと言えばそう思う　2:どちらかと言えば思わない　1:思わない

項目	重点目標	評価指標及び目標値		評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果(%)						
		評価指標	目標値					4	3	2	1	肯定率	平均	全体肯定率
1 家庭・地域連携	学校・家庭・地域が連携した教育の推進	①保護者や地域住民と連携して教育活動を行っている。	児童、保護者、教職員、地域アンケートの肯定率80%以上	A	【考察】 ◇全体的に肯定率95%と非常に高い評価を得ている。 ◇生活科の時間では、地域との交流学習や体験学習の場を多く取り入れ、児童も意欲的に取り組む姿が見られた。 ◇児童、保護者ともに家庭での会話が少ない家庭がある。 ◇総合的な学習の時間等には、地域の方々の御協力で見学や体験活動を通して充実した学習ができた。学習発表会で地域教材を取り入れた学習の成果を発表することで、地域の良さを発信する場になったのではないか。 【改善方策】 ◆本年度は、森林教育を核として鬼北地域の方々と触れ合うことができた。今後もこの御縁を大切にしながら学んだことを発信する活動に力を入れる。 ◆負担にならないように配慮し、団らんのきっかけ作りを行う。例えば「家の人にインビュー」等の家庭学習など。 ◆感染症予防対策を行いながら４年ぶりに福祉施設へ訪問し対面での交流ができた。今後も継続することで共に生きる力を育んでいきたい。 ◆生活科での地域学習の内容が毎年固定化されているたため、生活科もA年度B年度の教育活動計画を作成する。 ◆家庭科の実践では保護者の方にお世話になり、良い実践となっているため今後も家庭の負担にならない程度に続けていく。	児童(地域との交流)	◎	89	3	8	0	92	3.8	95
						保護者(地域との交流)	◎	61	39	0	0	100	3.6	
						教職員(地域との交流)	◎	86	14	0	0	100	3.8	
						地域(家庭・地域との連携)	◎	100	0	0	0	100	4.0	
						児童(家庭での会話)	◎	70	19	8	3	89	3.6	
						保護者(家庭での会話)	◎	54	32	14	0	86	3.4	
						教職員(参観日出席率80%以上)	◎	100	0	0	0	100	4.0	
		②ホームページや、学級通信・学校だより、CATV等で学校の取組を発信している。	保護者、教職員、地域アンケートの肯定率80%以上	A	【考察】 ◇情報発信に対して、教師が高い意識を持って取り組んでおり、その成果が肯定率に示されている。 ◇肯定率が95%という高い評価となっており、充実した情報発信ができていると考えるが、まだ足りないと感じている保護者が４%いる。 【改善方策】 ◆著作権や肖像権に配慮をした発信を心掛ける。 ◆学校の活動や取組が伝えられるような情報発信をしていく。 ◆ＨＰについては、まとめてアップすることが減るように対応する。 ◆児童の様子がよくわかるような学級通信を心掛ける。 ◆通信やHPだけでなく、ケーブルテレビ等も活用しながら積極的な情報発信に努める。	保護者	◎	65	31	4	0	96	3.6	95
						教職員(HP更新)	◎	86	0	14	0	86	4.0	
						教職員(通信)	◎	57	43	0	0	100	3.5	
						地域	◎	100	0	0	0	100	4.0	

学校運営協議会委員の所見	学校の対応
○地域とよく連携できている。特に森林教育では、具体的なテーマを設定して一年間を通して学べており学んだことが日常生活に生きている。 ○施設訪問や交流の再開ができて良い。本校の伝統となっている体験学習であり、そこから得られるものが大きい。 ○話ができていない環境が家庭でつくられているのではないか。 ○子どもや保護者に習い事や共働きの理由で話す時間がないのではないか。 ○通信やHP、ケーブルテレビ等、様々な手段での情報発信がありがたい。それらを話題として家庭での団らんが充実していくと良い。 ○マチコミを利用した連絡や定期的な配信による情報も行き届いている。 ○子ども同士で遊ぶことや学校外での関わりが少なくなっている。	○施設訪問や交流など体験活動を通した学びを今後も継続して取り組んで行く。 ○家庭での会話の啓発を行い、児童の悩みの早期発見に努め、家庭と連携して安心して生活できる環境づくりを行う。 ○これからもHPやケーブルテレビを活用し、積極的に情報発信をしていく。

令和5年度　後期学校評価　報告書

鬼北町立好藤小学校　令和5年度12月

【評価基準】A:目標を達成　B:7割以上達成　C:6割以上達成　D:6割未満の達成

4:そう思う 3:どちらかと言えばそう思う 2:どちらかと言えば思わない 1:思わない

項目	重点目標	評価指標及び目標値		評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果(%)						
		評価指標	目標値					4	3	2	1	肯定率	平均	全体肯定率
4 豊かな心・健やかな体の充実	豊かな心、健やかな体を育てる教育の推進	①元気で明るい挨拶ができている。	児童、保護者、教職員、地域アンケートにおける肯定率80%以上	A	【考察】 ◇全体肯定率としては、95%と高い。２評価の児童・保護者もいる。 ◇学校や地域では挨拶をするが、家庭ではあまりしない児童がいるのではないか。児童、保護者ともに家庭での挨拶の良さの周知を図る必要がある。 【改善方策】 ◆学級指導やよしふじ会議等で取り上げ、挨拶への高い意識を維持できるようにする。 ◆児童のモデルとなれるよう教職員から気持ちの良い挨拶をしたり、気持ちの良い挨拶ができている児童を賞賛したりする。	児童	◎	75	14	11	0	89	3.6	95
						保護者	◎	41	51	8	0	92	3.3	
						教職員	◎	86	14	0	0	100	3.8	
						地域	◎	90	10	0	0	100	3.9	
		②互いに認め合い、支え合い、笑顔あふれる明るい学校となっている。	児童、保護者、教職員アンケートにおける肯定率80%以上	A	【考察】 ◇保護者・児童の中には肯定率の低い児童も一定数いる。 ◇「学校に行くのが楽しい」の項目では、２や１の評価の児童もおり、学校だけでなく家庭環境などの要因も考えられる。（月曜日に欠席が多い傾向） 【改善方策】 ◆学校生活が、休み時間だけでなく学習場面や運動場面でも楽しいと感じられるように引き続き授業改善に努める。 ◆学級活動の中で、例えばソーシャルスキルを高める取組を通じて人との関わり方を学ばせる。 ◆肯定率の低い児童については、引き続き、教育相談等により、悩みの軽減や早期解決できるよう対応を図る。 ◆配慮を要する児童やＳＳＷとの面談で特に相談のない児童にも定期的に教育相談を行う。	児童(友達に優しく)	◎	78	14	5	3	92	3.7	96
						保護者(温かい仲間づくり)	◎	60	32	8	0	92	3.5	
						教職員(児童を認める)	◎	57	43	0	0	100	3.5	
						児童(学校が楽しい)	◎	78	17	5	0	95	3.7	
						保護者(元気に学校に行く)	◎	65	32	3	0	97	3.6	
						教職員(情報の共有)	◎	86	14	0	0	100	3.8	
		③楽しく運動したり、「早寝早起き朝ごはん」を心がけたりして、生活習慣の確立を図る。	児童、保護者、教職員アンケートにおける肯定率80%以上	A	【考察】 ◇学級担任、養護教諭を中心に、季節に応じた遊び方の指導を行っていただいている。自己評価で1・２の評価が多いのが課題である。 ◇特に１の評価が多く、３者間の評価のずれもある。習い事等の家庭環境も要因があると思われる。 【改善方策】 ◆運動場面において、自分の力を最大限発揮できるようにするためには食生活も大切であるということを機会を捉えて継続して伝える。 ◆啓発活動を継続し、よしふじっこチャレンジカードや朝の会の健康観察の様子を個別懇談会時に伝え、保護者と連携を図る。 ◆「早寝・早起き・朝ごはん」の大切さを児童にも伝えたり、朝の会で確認を行ったりすることで正しい生活習慣の確立を図る。 ◆家庭の支えが不可欠なので、家庭への呼び掛けを継続する。	児童(外で元気に遊ぶ)	○	64	14	8	14	78	3.3	89
						保護者(楽しく運動)	◎	60	24	8	8	84	3.3	
						教職員(外遊び)	◎	29	71	0	0	100	3.3	
						児童(早寝・早起き・朝ごはん)	◎	64	25	11	0	89	3.5	
						保護者	◎	24	62	11	3	86	3.1	
						教職員	◎	43	57	0	0	100	3.5	

学校運営協議会委員の所見	学校の対応
○子どもたちは、とても素直で明るく健康的な印象である。 ○家庭の役割が大きい。 ○人との関わりにおいて、コミュニケーション（認め合い、支え合う大切さなど）を学ぶことが多いのではないかと考える。 ○全校児童の仲が良く、上級生がとても優しく育っている。 ○中学生になって人数が増えた時にも変わらずにいてほしい。（上下関係も大切に） ○子どもからは、外での活動や遊びの会話が多くあり、安心している。 ○大谷グローブをきっかけにスポーツに興味を持ってくれると良い。 ○子どもの数が少ないこともあり、屋外で兄弟以外の友達と運動をしたり遊んだりすることは、ほぼ不可能に近いと思われる。体力づくりは、学校での体育の時間に依存することが大きいのではないか。 ○時代の流れなのか、生活習慣が変化しつつある実態は感じる。健康な体や心（家族愛・家族との会話等）しっかり身に付けてほしい。	○児童のモデルとなれるよう教職員から気持ちの良い挨拶をしたり、気持ちの良い挨拶ができている児童を賞賛したりする。 ○仲良しタイムの延長などを利用し、児童が外遊びをする時間を確保し、遊びを通して体力の向上を図れるようにしたい。 ○異年齢集団での活動など仲間づくりの活動を継続して取り組んで行きたい。 ○生活習慣については、発達段階に応じた指導を行いたい。特に、睡眠は心と体の成長に大きく影響しているので、児童自らが、睡眠時間を意識するようにさせたい。

令和5年度　後期学校評価　報告書

鬼北町立好藤小学校　令和5年度12月

【評価基準】A:目標を達成　B:7割以上達成　C:6割以上達成　D:6割未満の達成

4:そう思う 3:どちらかと言えばそう思う 2:どちらかと言えば思わない 1:思わない

項目	重点目標	評価指標及び目標値 評価指標	目標値	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果(%) 4	3	2	1	肯定率	平均	全体肯定率
2 安全・安心な学校	安全・安心な教育環境の整備	①家庭・地域と連携して児童の安全な登下校に努めるとともに、災害等に適切に対応する安全教育を推進している。	児童、保護者、教職員、地域アンケートにおける肯定率80%以上	A	【考察】 ◇全体的には97%と高い肯定率であるが、低い肯定率の児童が11%いる。 ◇肯定率の低い児童は、避難訓練に対する態度面で低い評価をしている。 【改善方策】 ◆避難訓練の目的をしっかりと理解させることで、真剣に取り組ませる。 ◆事後指導において、教師の説話等で訓練の大切さや命を守ることの大切さを再確認させていく。 ◆地震への備えなどの学習を充実させて、防災への意識を高めさせる。 ◆今後、総合的な学習の時間に防災教育を取り入れることを検討する。 ◆避難訓練時以外でも、児童に避難の仕方や災害時の行動などを確認させる。 ◆本校は地域の避難場所になっていることから、地域の方々と合同の防災訓練を計画してみる。 ◆防犯ブザーの定期的な点検をする。	児童	◎	69	20	8	3	89	3.9	97
						保護者	◎	74	26	0	0	100	3.7	
						教職員	◎	86	14	0	0	100	3.8	
						地域	◎	70	30	0	0	100	3.8	
		②やりがいを感じるとともに勤務時間を意識した働き方を推進している。	教職員アンケートにおける肯定率80%以上	A	【考察】 ◇前期よりは、肯定率が向上している。 【改善方策】 ◆やりがいを感じながらも持続可能な働き方を進めていく。 ◆税金を使いながら仕事をしているという意識を持ち、費用対効果を考えながら仕事を進める。	教職員	◎	43	43	14	0	86	3.8	86
		③感染症対策を行っている。	児童、保護者、教職員アンケートにおける肯定率80%以上	A	【考察】 ◇感染対策への取組への意識が教職員、児童、保護者で異なり、前期より全体の肯定率が低い傾向が見られる。 ◇コロナ対策が緩和されたため意識が低くなっていると思われる。 【改善方策】 ◆学年閉鎖もあり、意識付けや継続した感染症対策を行う。 ◆感染症防止の必要性が出た場合の生活様式の切り替えをスムーズに行わせる。 ◆寒い時期でも、換気や手洗い・うがい・手指消毒の呼び掛けを行っていく。	児童	◎	71	20	6	3	91	3.6	89
						保護者	○	51	25	24	0	76	3.3	
						教職員	◎	57	43	0	0	100	3.5	

学校運営協議会委員の所見	学校の対応
○避難訓練において、教師の説話や体験者からの話、映像など活用してみてはどうか。 ○子どもが一番心に響く（残る）ものにしてほしい。（いざという時に自分の命を守れるようになるために） ○時間外労働など体調に気を付けて仕事をしてほしい。 ○費用対効果は、教員としては難しいのではないか。（すぐ結果に結びつかず長い目で見た判断が必要である。） ○会社よりも子ども相手のためONとOFFの切り替えが難しいのではないか。 ○人材は足りているのか。 ○感染対策を継続してほしい。	○緊張感があり、そして学びがある避難訓練になるよう工夫をしていく。 ○人材や人員は適正に配置していただいている。今後もスクラップアンドビルドで業務を見直していく。 ○感染症対策については、引き続きしっかりと対応していきたい。保護者への呼び掛けも継続していく。

令和5年度　後期学校評価　報告書

鬼北町立好藤小学校　令和5年度12月

【評価基準】A:目標を達成　B:7割以上達成　C:6割以上達成　D:6割未満の達成

4:そう思う 3:どちらかと言えばそう思う 2:どちらかと言えば思わない 1:思わない

項目	重点目標	評価指標及び目標値		評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果(%)						
		評価指標	目標値					4	3	2	1	肯定率	平均	全体肯定率
3 確かな学力	確かな学力を育てる教育の推進	①ICT機器を効果的に活用し、学習への興味や関心を高めたり、個に応じた指導の充実を図ったりしている。	児童、保護者、教職員アンケートにおける肯定率80%以上	A	【考察】 ◇保護者・教職員の４の評価が増加した。また、前期と比べ１・２評価の児童が減少した。 ◇児童の肯定率も上昇し、ＩＣＴ活用に関する意識が底上げできている。 ◇どの学年も週３回以上は、navimaやEILS等の活用を行い、個に応じた指導の充実を図るなど教職員が共通実践できている。 【改善方策】 ◆短時間でもICT操作能力を高める時間を設けることで、着実に操作能力が向上している。それに伴い、学習場面でも効率的にGIGA端末を使い始めた。児童にとってできる喜びを多く経験させることで、学習への興味・関心を高めていく。 ◆３年生以上は、10分間集中テスト等、EILSを活用したCBT方式のテストに取り組むことで日々の学習の振り返りを行うことができた。児童の学習の成果と課題の把握につなげ、指導に生かす。 ◆低学年から少しずつローマ字入力やタイピング練習にも取り組み更なる充実を図る。 ◆ＩＣＴ活用により書くことの負担感が軽減し、考えることに重点を置いて文章作りができるようになった。今後も継続する。	児童	◎	86	11	3	0	97	3.8	96
						保護者	◎	57	34	9	0	91	3.4	
						教職員	◎	80	20	0	0	100	3.8	
		②基礎・基本が確実に定着し、学力が伸びている。	児童、保護者、教職員アンケートにおける肯定率80%以上	A	【考察】 ◇教職員の肯定率が大きく伸びている。個別指導の充実が図られ、単元テストにその成果が現れていると考える。 ◇教職員の肯定率の伸びに対し、保護者の肯定率の伸びが少ない。 ◇単元テストの結果からは、基礎的な内容は身に付いている児童が多い。応用問題にも対応できる力を伸ばす必要がある。 【改善方策】 ◆単元テストの伸びなどについて情報発信し、成果が上がっていることを保護者に伝える。 ◆県学力診断調査などの結果から長文や多くの資料から必要なものを選択し、問題に粘り強く取り組む力が必要になると思われる。日頃から、様々な文章や資料を読む習慣を付けさせる。 ◆読解問題の基礎力を身に付けさせるため、基礎的な問題のドリル学習を取り入れる。	児童	◎	78	19	3	0	97	3.8	97
						保護者	◎	30	62	8	0	92	3.2	
						教職員	◎	60	40	0	0	100	3.6	
						教職員(単元テスト)	◎	80	20	0	0	100	3.8	
		③個に応じた家庭学習の指導を行い、家庭学習習慣が身に付いている。	児童、保護者、教職員アンケートにおける肯定率80%以上	A	【考察】 ◇保護者の肯定率がやや低い傾向がある。 ◇児童アンケートでは２や１の評価、保護者アンケートでは３の評価があり、家庭学習の習慣が身に付いている児童が多いが、個人差があると思われる。 ◇教師の働き掛けに対して、うまく取り組むことができていない児童が複数名いる。 【改善方策】 ◆家庭学習習慣がうまく身に付いていない児童については、本人や家庭と話し合いの下、学習習慣の定着をねらいとした対応を図る。（チャレンジカードの利用） ◆家庭学習習慣が身に付いていない児童には、課題を調整したり児童にあった方法を工夫したりするなど、引き続き家庭との連携を図っていく。	児童	◎	75	14	8	3	89	3.6	87
						保護者	○	32	41	27	0	73	3.1	
						教職員	◎	60	40	0	0	100	3.6	
		④読書に親しんでいる。	児童、保護者、教職員アンケートにおける肯定率80%以上	A	【考察】 ◇学校での読書への取組は充実が図られているが、家庭での読書について肯定率が低い保護者の回答が多い。 ◇読書集会や読書の日の設定、朝読書、県立図書館からの借り入れ等、多くの取組を行っているが、肯定率は下がっている。多様なアプローチを図りたい。 ◇みきゃん通帳アプリの活用により、読書量が把握しやすくなり、読書意欲につながっていると思われる。 【改善方策】 ◆読書の良さや効果などを伝達する授業や集会を実施するなど、モチベーションの向上を図る。 ◆読書とともに、eスタを活用するなどして新聞記事に触れる機会も設ける。 ◆通信等で、児童の読書活動の様子や児童の「おすすめの本」を紹介するなどして、保護者の方にも学校での読書活動の様子を積極的に発信していく。 ◆児童が家族に読書中の本を知らせるなどの取組をし、共に読書を家庭で楽しむ雰囲気作りを図る。 ◆家庭ではゲームやユーチューブなどに多くの時間を費やす児童もいる。生活時間の見直しをさせる。	児童	◎	75	19	6	0	94	3.7	88
						保護者	○	27	43	19	11	70	2.9	
						教職員	◎	60	40	0	0	100	3.6	

学校運営協議会委員の所見	学校の対応
○子どもたちのタブレット操作に驚かされる。日々の授業でよく活用されていることが分かる。 ○タブレットの導入など時代に合った学習ができている。 ○家庭学習習慣については、教職員・保護者・児童それぞれの捉え方や、解釈の仕方がどうなのかと思う。放課後子ども教室では、ほとんどの子どもが宿題に熱心に取り組んでいる。 ○保護者は細かい部分まで把握できにくい面があり、学校からしっかり情報提供をいただくとありがたいし、評価もしやすい。 ○公民館の図書館もぜひ利用してほしい。最新刊やいろいろなジャンルの本を置いている。読書の機会を広げるために保護者にも知らせて親子で利用してもらうと良い。 ○ゲームやユーチューブ等、家庭では制限されているのか。 ○これからの時代は、ユーチューブ等の情報を活用しながら生活していくことも大切なことではないか。	○家庭教育の充実を図るために学校からの情報提供を行い、学校と家庭がより連携できる体制を整えていく。 ○読書については、家庭へも啓発していきたい。 ○タブレットを活用することで、児童の学習への意欲化や、学習のまとめの効率化、個に応じた学習の向上などが図られている。これからの時代を生きる児童にとっては、ＩＣＴの活用は不可欠である。情報リテラシー、モラル教育を進めていきたい。